

中林 瞭象（なかばやし・りょうしょう）

1、プロフィール

川柳作家。青森県川柳社の創立同人。同川柳社の代表を3代目から継ぎ 22年間務め、県川柳界発展に尽力した。

<生没>

1909(明治 42)年2月 24 日～1988(昭和 63)年5月 30 日

<代表作>

句集『歩道』『下戸のたわごと』

<青森との関わり>

黒石市生まれ。酒類販売業を営む。他、黒石市教育委員、同民生委員協議会長等務める。

2、作家解説

明治 42 年2月 24 日黒石市生まれ。黒石町立黒石尋常小学校卒。大正 10 年同市宇野酒造店勤務。昭和 15 年宇野酒店退職後酒類販売業を営む。黒石市教育委員、同民生委員協議会会長等を務めた。

昭和2年川柳入門、川柳「みちのく」誌友となる。昭和5年みちのく吟社同人となる。昭和 23 年青森県川柳社創立同人、機関誌「ねぶた」の編集を務める。昭和 40 年、後藤蝶五郎、佐藤狂六の後を継ぎ同川柳社代表を死去する昭和 63 年まで 22 年間務める。昭和 33 年句集『歩道』同 61 年句集『下戸のたわごと』刊行。県川柳社の代表として県柳壇の発展に尽力した。また2冊の句集を刊行し、全国誌である「路」「川柳研究」に投句し作家としても県柳壇の重鎮であった。昭和 55 年、同 63 年県柳人のアンソロジーである『青森県川柳句集』1、2集を編集刊行し、貴重な資料を残した。昭和 63 年5月 30 日死去(行年 80 歳)。平成元年黒石市中野神社に「雪を恋い雪を恐れて古稀至る」の句碑建立。

3、資料紹介

○『歩道』

図書

1958(昭和 33)年5月 15 日

125mm×172mm

著者の第1句集。川柳入門から30年間の作品を500句余にまとめた。序文は明本常丸、後藤蝶五郎。発行所「川柳句集『歩道』刊行会」。著者の川柳に向うひたむきな姿勢が感じられる句集である。

○『下戸のたわごと』

図書

1986(昭和 61)年9月1日

135mm×188mm

著者の第2句集。昭和35年から昭和60年までの25年間の作品をまとめた。年代毎に5年間を各一章とし、それぞれに柳友の祝いの文章を入れている。地味な作品ながら著者の肌ざわりの感じられる句集である。